

8月消費統計

一時的に改善も、先行きは低調な推移が見込まれる

経済調査部
齋藤 勉

[要約]

- 個人消費は一時的に改善：2012年8月の家計調査によると、実質消費支出は前年比+1.8%と7ヶ月連続のプラスとなった。振れの大きい住居や自動車などを除いた実質消費支出（除く住居等）で見ても、季節調整済み前月比+3.0%と4ヶ月ぶりの増加となった。8月は全国的に気温の高い日が多く、猛暑効果が表れたこと、消費者マインドが改善したことなどから、このところ弱含んでいた消費は一時的に改善した格好だ。ただし、前月からの反動増などを考慮すれば、増加幅に関しては割り引いて見る必要があると考えている。
- 先行きは低調な推移を見込む：海外経済の弱含みを受けて、輸出や生産は足踏み状態にあり、企業部門では減速感が見られる。自動車の反動減に伴う消費の減少は一定程度で留まるとみているが、企業部門の減速が所得環境の下押しにつながれば、それ以上に消費の下押し圧力となるため、生産の本格的な回復が見込まれる年明けまで、消費は低調な推移が続くだろう。

図表1：各種消費指標の概況

			2012年	2012年	2012年	2012年	出所
			5月	6月	7月	8月	
家計調査	実質消費支出	前年比	4.0	1.6	1.7	1.8	総務省
		前月比	1.5	▲1.3	▲1.3	2.2	総務省
	実質消費支出（除く住居等）	前月比	▲0.3	▲2.1	▲0.7	3.0	総務省
商業販売統計	小売業	前年比	3.6	0.2	▲0.7	1.8	経済産業省
		前月比	0.7	▲1.2	▲1.5	1.5	経済産業省
消費総合指数		前月比	0.8	▲1.0	▲0.5		内閣府
百貨店売上高		前年比	▲1.0	▲1.2	▲3.3	▲1.0	日本百貨店協会
コンビニエンスストア売上高		前年比	1.7	▲2.6	▲3.3	▲1.3	(社)日本フランチャイズチェーン協会
スーパー売上高		前年比	▲1.7	▲3.9	▲4.9	▲1.3	日本チェーンストア協会
外食売上高		前年比	▲1.5	2.6	▲1.7	2.3	(社)日本フードサービス協会
旅行取扱高		前年比	24.0	14.3	5.4		観光庁

(注) 百貨店売上高、コンビニエンスストア売上高、スーパー売上高の前年比は店舗数調整後。

(出所) 各種統計より大和総研作成

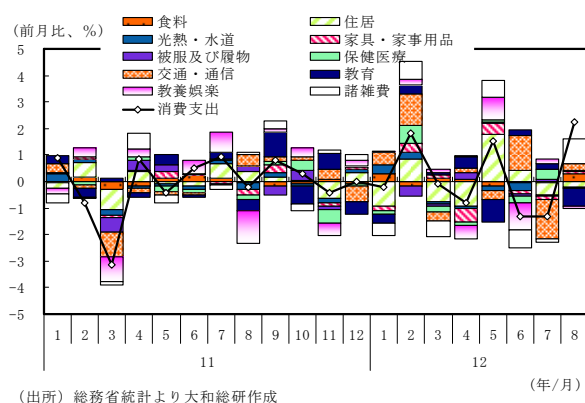
8月の消費は一時的に改善

2012年8月の家計調査によると、実質消費支出は前年比+1.8%と7ヶ月連続のプラスとなった。振れの大きい住居や自動車などを除いた実質消費支出（除く住居等）で見ても、季節調整済み前月比+3.0%と4ヶ月ぶりの増加となった。8月は全国的に気温の高い日が多く、猛暑効果で飲料品やエアコンなどの消費が堅調であった。消費者マインドも改善したことなどが作用し、このところ弱含んでいた消費は一時的に改善した格好だ。ただし、振れの大きい諸雑費の増加が作用していること、家計調査ベースで増加した自動車向け支出が供給側の統計で見れば減少していること、前月からの反動増の影響があると考えられることなどから、今月の消費の増加は割り引いて見る必要があると考えている。自動車に関しては、8月の時点で消費は低調であったが、9月21日付でエコカー補助金の受付が終了したことを背景に、年末に向けてさらに低調な推移が続く見込みである。先行きについても、海外経済の減速に伴う生産の弱含みが賃金の減少につながり、所得環境も悪化が見込まれることから、消費全体で見ても低調な推移が続くだろう。

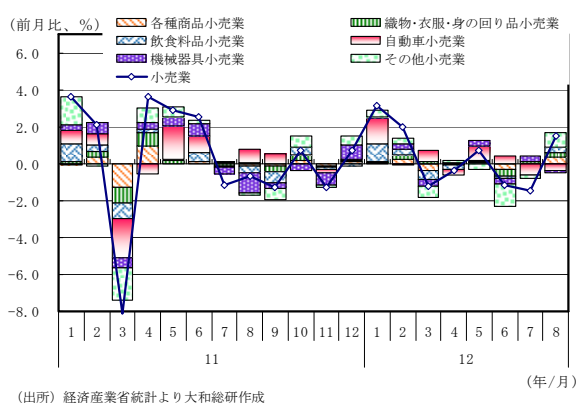
猛暑効果による飲料やエアコン消費の増加が見られる

家計調査の主要項目の動きを確認すると、「食料」、「交通・通信」、「家具・家事用品」などが前月から増加している。8月は気温の高い日が多く、猛暑効果で飲料を中心とした消費が好調であった結果、「食料」は前月比+1.3%と2ヶ月ぶりのプラス。「交通・通信」は、前月に落ち込んだ自動車支出の反動で、前月比+2.0%と増加した。ただし、乗用車新車販売台数（季節調整は大和総研）を見ると、8月は前月比▲14.4%と大きく減少しており、結果は割り引いて見る必要があるだろう。「家具・家事用品」でも猛暑効果が表れており、エアコンの消費を中心として増加し、前月比+1.7%と3ヶ月ぶりのプラスとなった。ただし、消費支出の増加の大きな部分を「諸雑費」が占めており、今月の消費の増加は割り引いて見る必要がある。

図表 2-1：実質消費支出の項目別寄与度



図表 2-2：小売販売額の商品別寄与度分解



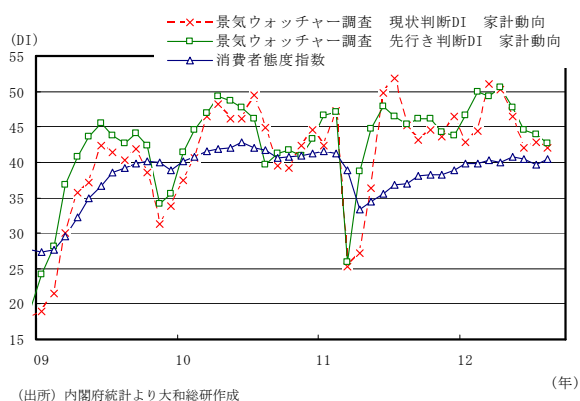
商業販売統計も3ヶ月ぶりの前月比プラス

供給側から個人消費動向を捉えた商業販売統計の結果を見ると、8月の名目小売販売総額は前年比+1.8%と2ヶ月ぶりのプラスとなった。季節調整済み前月比で見ても、+1.5%と3ヶ月ぶりのプラスとなっている（図表2-2）。百貨店などが含まれる「各種商品小売業」が前月比+2.9%と増加しており、季節商材の販売が堅調であったと考えられる。また、百貨店協会の資料では訪日外国人客数の伸びが大きかったことが指摘されており、その影響も作用したと考える。一方で、自動車小売業では販売額が前月比▲3.2%と減少しており、エコカー補助金の下支え効果の剥落が表れている。

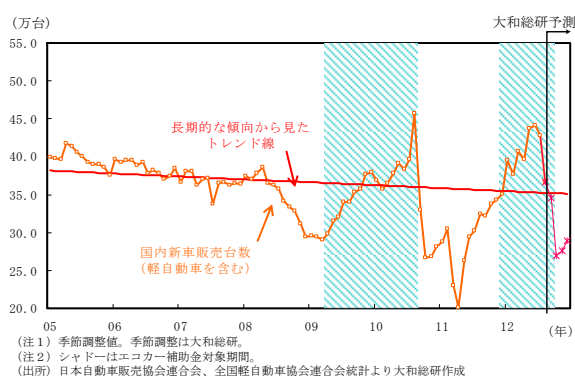
消費者マインドは3ヶ月ぶりの改善

8月の消費者態度指数は、前月差+0.8ptと3ヶ月ぶりの上昇となった（図表3-1）。「暮らし向き」「収入の増え方」「雇用環境」「耐久消費財の買い時判断」の四つの指標がすべて改善しており、夏のボーナスの減少による消費者マインドの押し下げが一服したとみられる。

図表3-1：消費者マインドの推移



図表3-2：エコカー補助金の影響



エコカー補助金は9月21日をもって終了

2011年12月に復活して以降消費を押し上げていたエコカー補助金は、9月21日をもって受付が終了した。当初大和総研では8月中旬に予算切れになると見込んでいたが、予算切れ間近になっても駆け込み需要が見られなかったことなどから、想定よりも遅れての予算切れとなった。駆け込み需要が見られなかった背景には、人気車種の納車に時間がかかり、エコカー補助金の対象から外れてしまったことや、メーカー、販売店によって補助金に間に合わなかった場合でも一定の金額を割り引くサービスが提供されたことがある。ただし、長期的な傾向から見た水準と比較すれば、補助金対象期間中に50万台程度が上乘せされているとみられるため、今後年末に向けて反動減が生じることは免れようがないと考える（図表3-2）。

ただし、前回のエコカー補助金の終了時には、減少した自動車消費に代替する形で、エコポ

イント関連商品や外食・旅行を中心とするサービスへの支出が増加した。今回も同様に、サービス等での支出が増加し、自動車消費の減少を補うとみられることから、消費全体を押し下げる効果は一定程度に留まるとみている。

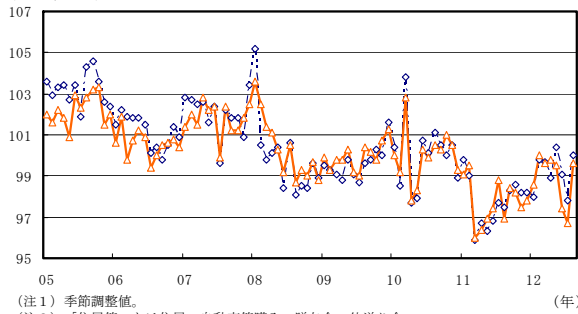
先行きは低調な推移が続くと見込む

海外経済の弱含みを受けて、輸出や生産は足踏み状態にあり、企業部門では減速感が見られる。自動車の反動減に伴う消費の減少は一定程度で留まるとみているが、企業部門の減速が所得環境の下押しにつながれば、それ以上に消費の下押し圧力となるため、生産の本格的な回復が見込まれる年明けまで、消費は低調な推移が続くだろう。

消費・概況

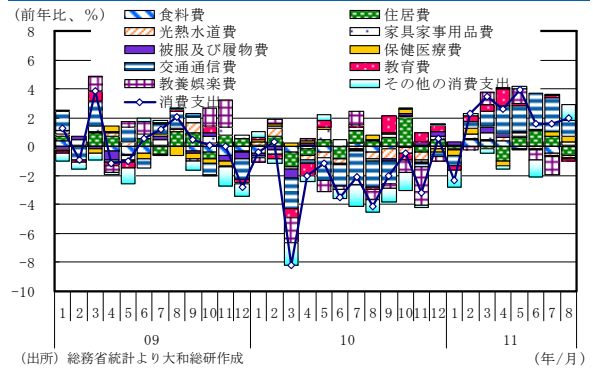
実質消費支出（家計調査、二人以上世帯）

(2010年=100) 実質消費支出 実質消費支出（住居等を除く）



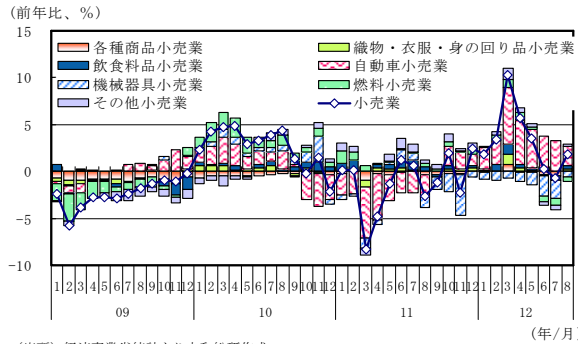
(注1) 季節調整値。
(注2) 「住居等」とは住居、自動車等購入、贈与金、仕送り金。
(出所) 総務省統計より大和総研作成

実質消費支出の項目別寄与度



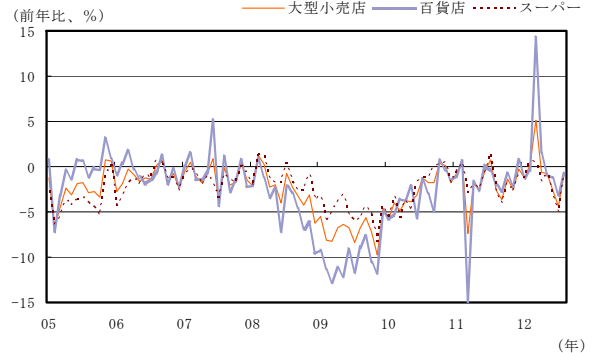
(出所) 総務省統計より大和総研作成

商業販売統計小売業販売額の推移（前年比）



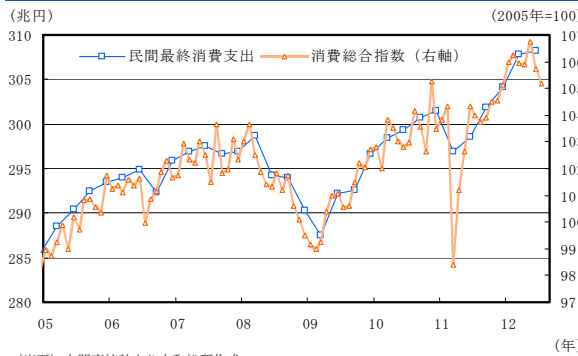
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

大型小売店販売額推移



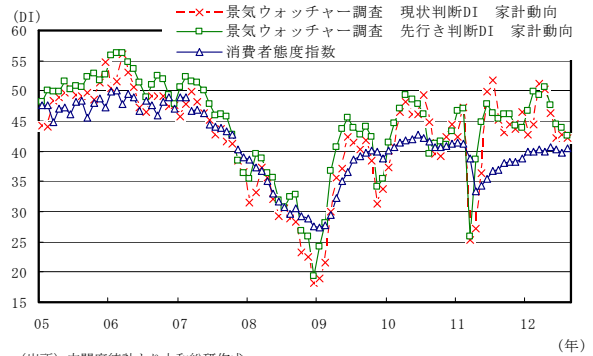
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

GDPベースの民間最終消費支出と消費総合指数



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

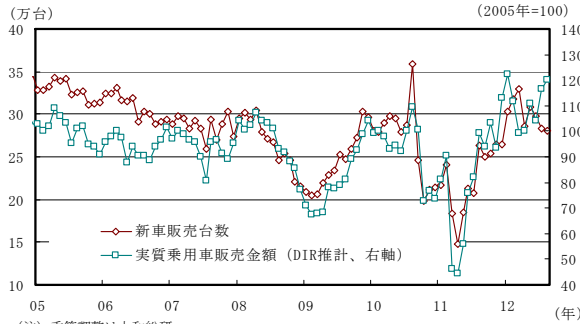
消費者マインド



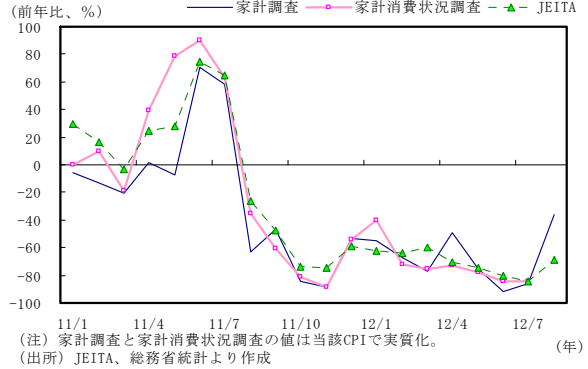
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

消費・協会統計

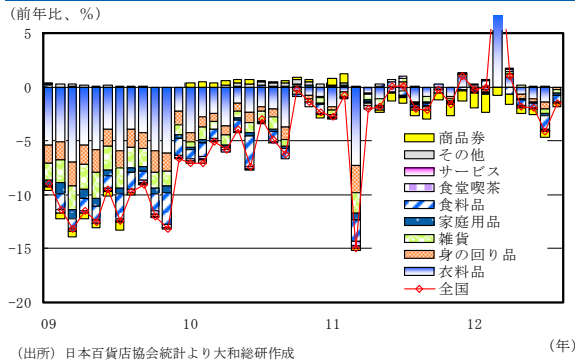
新車販売台数と実質乗用車販売金額



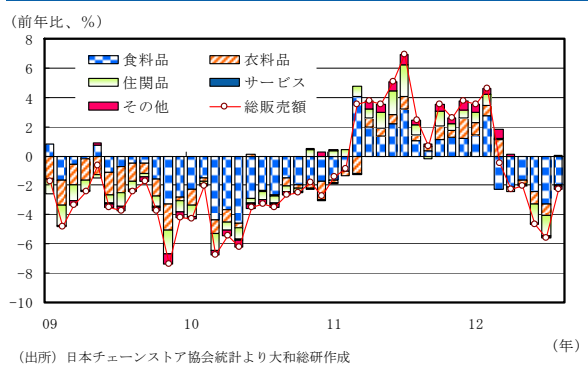
テレビ消費額と出荷台数



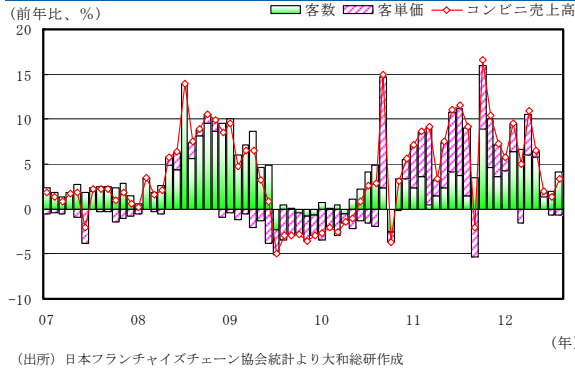
百貨店売上の寄与度分解 (品目別、店舗数調整前)



スーパー売上の推移 (店舗数調整前)



コンビニ売上高 (店舗数調整前)



外食市場売上高

